

エスキーテニス

戦後、広島で考案され、広島で育った「平和のシンボルスポーツ」。今では「コミュニティスポーツ」「ファミリースポーツ」として全国に広がっています。

世界の平和を願い、広島に創設が提唱されていた大学院の名称「教育科学文化研究所 (Education Science and Culture Institute)」の頭文字[ESCI]をとって名付けられました。

羽根のついたゴルフボール大のスポンジボールを、木製ラケットでネット越しに打ち合うテニス型のスポーツです。羽根がボールのスピードを落とすため、小さなコートで手軽にプレイすることができます。

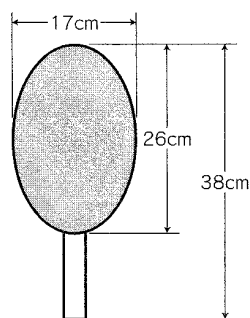
用具

用具はこのスポーツのために考案された専用の用具を使用する。

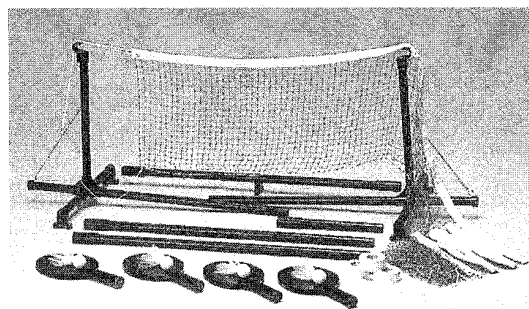
☆ラケットは木製で、その規格は図1の通りである。

☆ボールは、ナイロン製でネット状の羽根のついたゴムボールで、直径4cm、重さ20gのものである。

〈図1〉 ラケット



〈図2〉

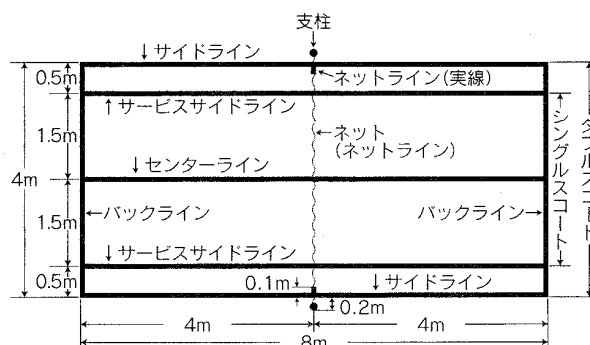


場所（コート）

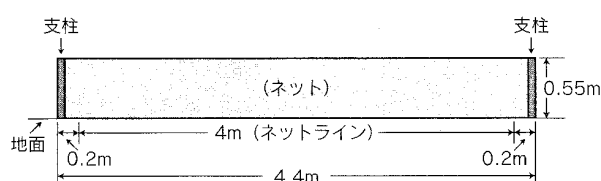
☆コートは、屋外では運動場、公園、職場等構内敷地、ビル屋上等、また室内では体育館、ホール、会議室等が活用できる。（図3）

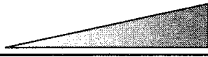
- ① コートのラインの幅は3cm～4cmとする。
- ② コート外に、それぞれバックライン後方（外側）3～5m、またそれぞれのサイドラインの外側に2m程度プレイ領域が必要である。
- ③ ネットおよびその支柱（専用）は、組立て式で簡単にセットできる。（図4）

〈図3〉 コート



〈図4〉 ネット



	
運 動 量	★★★★
技 能	★★★
準 備	★★★

ルール（進め方）

- ① 試合は、シングルスかダブルスで、3セットのうち2セット先取した方が勝ち。
- ② セットは、11点（7点ゲームもある）得点した方が勝ち。ただし双方の得点が10点（7点ゲームのときは、6点）となった場合は、ジュースとし、その後2点連続得点した方が勝ち。
- ③ 第1セットはジャンケンの勝者がサービスかコートを選択して、開始する。第2セットでコートもサービスも交代し、第3セットは第2セットの勝者が、サービスかコートを選択。
- ④ サービスはコートの後方でボールを手の平にのせ、肩の高さから自然落下させて、ワンバウンドしたボールを対角の相手サービスコート（対角のシングルコートのエリア）へ打つ。
- ⑤ 同一セット中のサービスは、1回ずつネットに向かって、右から左右交互（ダブルスでは、パートナーと交互）に行い、双方の得点合計が5点（7点ゲームでは3点）ごとに相手とサービスを交代。ただし、ジュースとなったときは、その得点をした方が右から、ジュースワンとなったときは、その得点をしたほうの左からサービス。
- ⑥ サービスのネットインはやり直す。
- ⑦ サービスのときは、すべてのプレイヤーはコート外に位置し、サーバーがサービス（打球）した後でなければ、コート内に入れない。
- ⑧ サービスのレシーブはボールがワンバウンドしてから打ち返す。
- ⑨ ラリーは、ノーバウンド又はワンバウンドしたボールを打つ。ただし、同一人がノーバウンドを連続して打てない。（ダブルスでは、ペアのどちらが打ってもよいが、ノーバウンドは交互でなければ打てない。）
- ⑩ ネットオーバーやタッチネット、コート内で身体や服などがボールに触れると反則。
- ⑪ 打ったボールがコート外に直接出れば、相手の得点。
- ⑫ オンラインはセーフ。
- ⑬ 試合中、羽根がはずれたらノーカウント。
- ⑭ 得点は、主審の右側からコール。